ロシア語リーダー：ロシア民話と語学的注釈（その１）

高　橋　健一郎
岡　部　由　佳
小　林　慎　吾
村　松　多恵子

本稿は *Russian Reader* (Notes by P. Boyer & N. Speranski, adapted for English-speaking students by S. N. Harper), Chicago, Illinois: The University of Chicago Press, 1906 の第１章とそれに関連する補遺部分を翻訳したものである。本書はロシア語を学ぶ英語話者のために編まれたもので（もともとはフランス語で書かれたものを英語版に翻訳、編集したもの）、各章でまずレフ・トルストイが晩年に書いたロシアの民話のテキストが提示され、そして学習者が躓きやすい語彙や文法の問題に関してきわめて詳細な注釈がつけられている。学習者に求められているロシア語の知識は、文字の読み方、発音、基本的な文法事項（活用、格変化、アスペクトなど）だけであり、初等文法を一通り終え、ロシア語で書かれた文章を読み始めようとする段階に適した教材である。しかし、そこで解説される事項は、基本事項のみならず、初等文法では扱われないような特殊な用法や口語的な用法も含まれており、ロシア語の教師や研究者にとっても有益である場合が多い。学習教材として、またロシア語学の参考資料として、日本語話者にとっても有用であると思われるため、以下に訳出するしだいである。

翻訳作業においては、大学院生（岡部、小林、村松）が訳したものを、高橋が点検し、そして文体の統一を図った。なお、オリジナルではロシア語は旧正書法に基づいて書かれているが、本稿では新正書法に基づいた書き方に改めた。また、言語学用語に関しては、日本語に訳す場合、一般言語学、英語学、

ロシア語学でそれぞれ訳語が異なることがあるが、基本的にはロシア語学で用いられている訳語を優先的に採用した。また、訳語の選択の問題を越え、基本的な文法観の違いが表れている場合には（例えば、札幌大学の教科書では「完了体未来」としているが、本書では「完了体現在」としている場合など）、基本的には原文に忠実に訳している。

I．[Бе́лка и во́лк.][1]

Бе́лка пры́гала с ве́тки на ве́тку и упа́ла[2] пря́мо на со́нного во́лка. Во́лк вскочи́л[3] и хоте́л её съе́сть. Бе́лка ста́ла проси́ть[4]: «Пусти́ меня́». Во́лк сказа́л: «Хорошо́, я пущу́[5] тебя́, то́лько ты́ скажи́[6] мне́, отчего́[7] вы́, бе́лки, та́к ве́селы[8]. Мне́ всегда́ ску́чно[9], а на ва́с смо́тришь[10], вы́ та́м вверху́[11] всё[12] игра́ете и пры́гаете». Бе́лка сказа́ла: «Пусти́ меня́ пре́жде на де́рево, я отту́да[13] тебе́ скажу́, а то́[14] я бою́сь[15] тебя́». Во́лк пусти́л, а бе́лка ушла́[16] на де́рево и отту́да сказа́ла: «Тебе́ оттого́ ску́чно, что[17] ты́ зо́л[18]. Тебе́ зло́сть се́рдце жжёт[19]. А мы́ ве́селы оттого́, что мы́ добры́ и никому́[20] зла́[21] не де́лаем».

---

[1] 括弧に入っているタイトルはオリジナルのテキストにはなく、読者の便宜のためにつけたものである。

[2] У-пал, -ла, -ло, -ли は完了体 упасть（落ちる）の過去形。直説法現在では、у-пад-у, -ёшь と変化する。本来は不定形は*у-пад-ть（語根は пад-）、過去形は*у-пад-л（この*の印は慣例に従って次のような意味で用いている：この形自体は現在使用されていないが、現存する形の由来を説明あるいは正当化できるような元の形、あるいは理論的に導き出される形）。Прыгала と упала という二つの動詞の体の違いに注意。前者は不完了体継続相であり、後者は完了体瞬間相である。

[3] Вскочил の動詞前辞は в-ではなく、вз- (воз-)であり、下から上への運動を表す。

[4] Стала просить. 動詞 стать (ста-ну, -нешь)は後ろに不定形を伴って、「取り掛かる」、「始める」という意味を持つ。Стать 自体は完了体だが、それに続く不定形はつねに不完了体である。「стану＋不完了体不定形」は単に「буду＋不完了体不定形」の代わりにすぎないことが多い（стану делать＝буду делать）。また「стал＋不完了体不定形」は単に完了体過去の迂言形に過ぎないこともある。この動詞 стать と同じ意味は、стало-быть「だから」（文字通りには「そのようになり始めた」）という副詞表現にも見られる。

[5] Пущ-у, пуст-ишь は пуст-и-ть（完了体）の直説法現在、「解放する」「釈放する」という意味。これに対応する不完了体は пуск-а-ть。動詞前辞がついたり（у-пасть のように）、一回の行為を表す-ну-という接尾辞がついたり（клик-ну-ть「叫ぶ」「誰かを呼ぶ」のように）しない単純な完了体動詞は約 30 ある。

[6] С-каж-и は「言う」の意の с-каз-а-ть (с-каж-у, с-каж-ешь)の命令形、完了体。

[7] Отчего＝от чего.「なぜ」という意味（文字通りには「何から？」）。Чего は中性形の疑問・関係代名詞 что の生格。

[8] Веселы（「快活な」）は весёлый, -ая, -ое の複数主格形短語尾。動詞が省略され、веселы が вы の述語となっている。Ве 動詞（存在の動詞）の直接法現在の一人称と二人称は、現代ロシア語ではまず使われることがない。三人称の есть と суть の用法については、【補遺 I】の項を参照。

[9] Мне скучно「俺は退屈だ」。このタイプの無人称構文は頻出する：мне грустно「私は悲しい」；ему весело「彼は楽しい」。

[10] А на вас смотришь（смотреть の変化形で不完了体）、不定の意味の二人称単数：自身への一種の呼びかけのようなものであり、話者は自分自身をあたかも対話者であるかのように捉えている。特に砕けた話し言葉で頻繁に使われる。無人称的に用いられる英語の〝you〟と比較されたい。この最後の文の構文に注意：二つの文が並置によって繋げられているが、これはロシア語のシンタクシスの特性である。

[11] Вверху＝в＋верх. У の語尾をとる単数前置格である（-ю は軟変化）。

[12] Вс-ё は中性形単数で、代名詞でも形容詞でもあり、「全部の…」という意。Весь, вся, всё と変化し、複数形は все。ここでは「いつも」（「常に」「絶え間なく」）という副詞的意味で使われている。ちなみに、Все-гда は「いつも」（「いつでも」）という意。

[13] Оттуда＝от туда.「そこから」という意。ちなみに、отсюда は от と сюда が組み合わさったもので、「ここから」という意味である。両方とも откуда（＝от куда）「どこから？」という問いに対する答えである。アクセントの対立に注意。Оттуда は у に力点が置かれるが、туда は а に置かれる。同様に、отсюда は ю に力点が置かれるが、сюда は а に置かれる。また、откуда は у に力点が置かれ、куда は а に置かれる。

[14] А то は小さな挿入句で、文字通りには「その他の点がある」「だが実際は」の意。英語に訳すと、一般には“otherwise”, “but”, “if not”（そうでないなら）となる。ここで想定されるのは、好まれない選択肢があるという事実である。To は省略されている be 動詞の主語である。

[15] Бо-ю-сь, -ишь-ся は боять-ся の変化形であり、不完了体動詞。「恐れる」という意味で、生格をとる。

[16] У-шёл, -шла, -шло, -шли。男性形は本来は*у-шед-л である。-е- は男性形にのみ現われる。Шёл（本来は*шед-л）は動詞語根 шед-（「行く」）の不完了体過去。以下の例を参照：能動過去分詞（能動形動詞過去）шед-ший, -шая, -шее；名詞 шес-твие（本来は*шед-твие）「行進」「行列」。ロシア語では動詞「行く」の語形変化が二つの語根を取る：и-（あるいはその発展形 ид-）という語根と、шед-, ход-という語根であり、次のように用いられる：不完了体の定体（定動詞）の意味の場合、不定形は ид-ти, ит-ти であり、二通りの綴りがある（古い綴りである и-ти は、論理的に可能であるというだけであり、現在では、動詞前辞を伴う複合語の中で、前辞が母音で終わり、かつ語根が単音節をなし、и- が -й- と書かれる時に現われるのみである）。直説法現在は ид-у, ид-ёшь；命令形は ид-и；過去形は шёл, шла, шло；不完了体の不定体（不定動詞）の意味の場合（英語には ходить に対応する語はないが、〝I am going〟という表現は通常定体として理解され、〝I go〟は不定体の意味になりやすい）は、不定形は ход-ить；直説法現在は хож-у, ход-ишь（規則変化）。定体と不定体については【補遺II】を参照のこと。動詞に前辞がつくと、идти と ходить の複合語は互いに対応するペアをなす。その際、前者は常に完了体であり、後者は不完了体である。こうして次のような動詞のペアが形成される：完了体 во-йти（я の形が во-йду となり、過去形は во-шёл, -шла, -шло と変化）と不完了体 в-ходить「～に入る」、「～に参加する」；完了体 до-йти と不完了体 до-ходить「～まで行く」、「～に達する」；完了体 на-йти と不完了体 на-ходить「～を見つける」、「捜し出す」（本来は「進む」）；完了体 подо-йти と不完了体 под-ходить「～に近づく」；完了体 у-йти と不完了体 у-ходить「立ち去る」、その他。

[17] Оттого（本来は от того）...что... は отчего（注7参照）の問いに対する答え。Того は指示代名詞 тот, та, то の男性・中性形単数の生格で、指示対象が省略されている。次の例を参照のこと：с того дня「あの日から」；на тот свет「あの世へ」；на том свете「あの世で」；и без того「それなくても」；не без того「～なくはない」；итого（本来は и того）「（勘定や請求書の下の方に記されて）「全体では、合計で」（文字通りには「そして、あれの」）。

[18] Зол, зла, зло は「邪悪な」「悪意のある」という意味の злой, -ая, -ое という形容詞の短語尾形。中性形の зло は「悪」という意味の名詞として用いられる。

[19] Тебе злость сердце жжёт「お前の心は邪悪さで焦げ付いている」。Злость は主格、сердце は対格。Жжёт は、不完了体動詞 жечь の直説法現在三人称単数形で、жгу, жжёшь と変化。過去形は жёг, жгла, -ло, -ли。「燃やす」という意味の他動詞。

[20] Никому（＝否定辞 ни＋кому）. Ни-кто「誰も～ない」の与格。

[21] Зла は名詞 зло の生格。否定動詞の直接補語は生格か対格で表す。しかし、生格の方が規範的であり、対格が規範からの逸脱だということを忘れてはならない。

【補遺Ⅰ：存在の動詞（be 動詞）】

ロシア語では三人称の есть と суть のかなり特殊な用法を除いて、be 動詞は現在時制では使われない。

Ⅰ．be 動詞の現在時制とその代替語

(1) 定義に用いられる есть と суть：ドストエフスキーの «Записки из мёртвого дома»『死の家の記録』の第1章第1節：человек есть существо ко всему привыкающее「人はあらゆることに慣れる生き物である」；学術的な言語の公理において：грамматика есть наука о законах языка「文法は言語の法則に関する学問である」；ангелы суть духи бесплотные 「天使は肉体のない魂である」などのように用いられる。しかしながら、話し言葉では есть の使用は通常認められず、суть の同様の使用にいたっては完全に避けられることに注意すること：Что такое ангелы? 「天使とは何ですか？」という問いに対し、会話における答えは ангелы суть духи бесплотные ではなく、より簡単に ангелы — это духи бесплотные となる。

(2) 存在の概念を強調する есть：Бог есть「神は存在する」；その他この用

法と関連した多くの表現：「ある、いる」を表すеcть（у＋生格［あるいは前置詞なしの与格］で「私はもっている」「彼はもっている」などを表し、есть ли у Вас деньги?「あなたはお金をもっていますか」などのように用いられる）；то-то и есть「それそれ、そこなんだ」など。この構文では、三人称単数形は単複両方を指して用いられ（есть ли у Вас деньги?）、また話し言葉においては三つの人称すべてに用いられ得る：Чего там долго собираться? иди, как (ты) есть あるいは иди в чём (ты) есть「なにをそんなに準備に手間取ってるんだ。そのままで（つまり、そのままの格好で）行けよ」；ну, каков я есть, таков и есть「まあ、俺は見たとおりの男さ」。

現在時制のbe動詞を省略しても次のようなタイプの文では意味は明らかなままである：он добр「彼は優しい」、он писатель「彼は作家だ」、он дома「彼は家にいます」、ключ у меня「私は鍵を持っています」。しかし、be動詞が主語と述語の間の単なる連結詞以上のものである場合はそうではない。ロシア語は一般的に、ものごとを視覚的に見たり表したりするという傾向を非常に強く持っているのだが（例えば、本を横に寝かせて置くか、立てて置くかに応じて、ロシア語では я положу/я поставлю книгу на полку を使い分けるが、英語では同一の抽象的な語がロシア語の両方の文を訳すのに使われる）、be動詞に関してはそれがほとんどあてはまらない。このように、ほかの言語ではbe動詞が使われるような場合に、ロシア語においては具体的な意味をもった動詞がbe動詞の代わりに使われる。それは、意味をはっきりさせるという目的と同時に、抽象的な用語を使いたくないという理由でそうされるのである。Be動詞の代替語と言える動詞は多数ある。代替される動詞の本来の意味はすでに弱まっていると感じられるかもしれないが、しかし語が選ばれる時、その本来の意味が決め手になっている。これらの動詞は、本来の意味がまだ感じられるか否かに従って、二つのグループに分けることができる。最も一般的な動詞は：

(i) 具体的な意味を残し、日常的に用いられる動詞：

сид-е-ть（本来の意味は「座る」「着席している」）：例）я сижу дома（文字

通りには「私は家に座っている」）という文は単に「私は家にいる」を意味する。

леж-а-ть（本来の意味は「横になっている」）：例）Париж лежит на Сене（「パリはセーヌ川沿いにある」）；мешок лежит в углу（「袋は角に（横にして）置いてある」）；книга лежит на полке（「本は棚の上に（横にして）置いてある」）。

сто-я-ть（本来の意味は「立っている」）：例）мешок стоит в углу（「袋は角に（立てて）ある」）；книга стоит на полке（「本は棚の上に（立てて）置いてある」）；чего ты тут стоишь?（「君はそこで何をしているの？」）；стоит хорошая погода（「良い天気だ」）；морозы стоят（「厳しい寒さが続いている」）。

フランス語にいたっては、英語よりもさらに具体性に欠けることに注意しよう。なぜなら、これらすべての例で使えるのは動詞 *être*（～である）だけだからだ。さらに、上記の三つの動詞が、単純な be 動詞には見られないような不変、持続、ある場合には不動性といった概念を表していることに注意しよう。例えば、он сидел в тюрьме, в крепости「彼は刑務所にいた、要塞にいた」（сидел は文字通りには「座っていた」で、参考までに英語では〝lies〟「横になっている」を使う）；он просидел в остроге два года「彼は監獄に二年間いた」。（острог は「監獄」「刑務所」の意。）

(ii) 具体的な意味がかすかにしか残っておらず、日常言語には馴染みのない動詞：

со-сто-ять：不完了体（「～からなる」、造格を伴い「～の地位や職にある」）：он состоит в военной службе「彼は軍に勤めている」；он состоит адъютантом при Великом Князе Владимире Александровиче「彼はヴラジーミル・アレクサンドロヴィチ公の副官を務めている」；

явл-я-ть-ся：完了体は яв-и-ть-ся「自分自身を～と見せる」「～となる」；

о-каз-ыва-ть-ся：完了体は о-каз-а-ть-ся「～のように見える」「～であるとわかる」：всё это оказалось пустяками「これらすべては結局つまらないことであった」；

пред-ставл-ять собою：完了体は пред-став-и-ть собою（＋対格）「提示する」：земля представляет собою сплюснутый у полюсов шар「地球は両極が潰れている球である」。

Be 動詞の代替語は特に現在時制において必要とされるものであるが、しかし同じように未来時制と過去時制においても用いられる。ロシア語を他言語に翻訳する際、その言語が be 動詞の使用に特に制限がなくても、多くの場合、その意味を表すのにこれらの代替語を be 以外で表さなければならないだろう。

II．быть の不定形を伴う叙述形容詞の格

быть の不定形を伴うと、述語は牽引作用により、その前に置かれている先行与格と一致する。例：ему хочется быть богату（ему хочется быть богатым も可能）「彼は金持ちになりたい」。クルィロフの寓話第二巻を参照：

Коль до когтей у них дойдёт,
То, верно, льву небыть живому.
「爪をつきたてあう（とっくみあう）事態にいたれば、
きっとライオンは生きていられないだろう。」

無人称文では、先行する与格の主語が無い場合でも、быть の不定形を伴う同じ叙述与格構文が可能である。例：Сколько воду ни пить, а пьяну не быть（諺）「いくら水を飲んでも、酔っ払うことはない」；быть приняту「そういうことになっている（例えば、習慣で）；グリボエードフの «Горе от ума»（『知恵の悲しみ』）の中につぎのようなものがある。

Зачем же быть, скажу Вам напрямик,
Так не воздержну на язык,
В презрении к людям так не скрыту...?
「（おまえに）率直に言うが、なんで
しゃべるのを我慢せず、
そんなに隠しもせず人々を軽視するのだ。」

Be 動詞の不定形を伴う述語与格のこれらの用法は、次のような用法と比較できる。

(1) быть 以外、быть の代替語とみなし得る動詞の不定形を伴った述語の与格：例）Прошу позволить мне остаться неизвестну「人に知られないままでいさせてください」；

(2)「何かを自分で、一人でする」などのタイプの句において何らかの不定形をともなって主語を修飾する語の与格：例）Затруднительно это делать самому「これを自分でやるのは難しい」（女性の場合は самой、複数の場合は самим）；тут вечером опасно ходить одному「夜そこを一人で歩くのは危険だ」。

なお、大体において、不定形 быть がついた叙述形容詞の与格構文は、明らかに古めかしい。慣用表現以外では、それは以下の二つの構文で一般的に使われるだけである。

(1) 一般的な定義づけ；例えば辞書の中で受動の意味をもつ再帰動詞の語義説明において приниматься＝быть принимаему「認められる」；почитаться＝быть почитаему「尊敬される」；избираться＝быть избираему「選択される、選出される」などのように用いられる。しかし、叙述形容詞はすでにいくらか古めかしく感じられる。よって、このように「豊かになる」といった種類の表現においては一般的に быть богатым（造格の述語）の方が быть богату（与格の述語）より好まれるだろう。

(2) 必然的に起こる未来の表現；уж побьют тебя「お前は殴られるぞ（誰

かがお前を殴るぞ)」ではなく、уж быть тебе биту「お前は殴られるぞ」を使うと、「殴打からお前は逃れられない」という意味になる；Кому быть повешену, тот не утонет「絞首刑を受けることが決まっている人は、溺れ死ぬことを恐れるまでもない」(諺)。

この最後の二つの用法においては、述語がほとんどつねに分詞（形動詞）であり、現代の用法では長語尾ではなく短語尾でおかれることに注意すること。また、必然の未来という意味をもつ быть тебе биту という構文が口語的な性格をもつことにも注意すること。

不定形を伴う修飾語の与格（самому, самой, самим）の構文の方は、今でも一般的によく使われる。

【補遺II：定動詞と不定動詞】

運動を表すほとんどのロシア語の動詞のアスペクトの対立は、フランス語の二つの動詞 *marcher*（歩く）と *aller*（行く）の意味のある種の対立に若干似ている。状況と目的地が不定である運動と一般的行為を表す動詞（フランス語の *marcher* のタイプ）は、反復の接尾辞（-а-または-и-）を持つ。一方、一定の運動や特定の行為を表わす動詞（フランス語の *aller* のタイプ）は、反復の接尾辞を持たない。英語でも現在時制において同様のアスペクトの区別をする傾向がある："I am going" は一般に定動詞で、"I go" は不定動詞である。例えば、птицы летают「鳥たちは飛ぶ」、куда эти птицы летят?「この鳥たちはどこに飛んでいくのか？」という意味で、また、я хожу быстро「私は速く歩く」、つまり「私は速歩きの人です」という意味になる。しかし、「私は電車に遅れないように急いでいるので、速く歩いている」ならば、я иду скоро потому что спешу на поезд である。

下記の動詞のペアは、最初が不定動詞で、二番目が定動詞である。

不定動詞の лет-а-ть は-а-ю と変化し、定動詞の лет-е-ть は леч-у, лет-ишь と変化し、「飛ぶ」の意。Птица летает は（一般に）「鳥は飛ぶ」という意味

だが、куда летит эта птица? は、「この鳥はどこへ飛んでいくのか？」という意味である。

不定動詞の плав-а-ть は-а-ю と変化し、定動詞の плы-ть は плыв-у, -ёшь と変化し、「流れる」、「航海する」、「泳ぐ」の意。

不定動詞の бег-а-ть は-а-ю と変化し、定動詞の беж-а-ть は бег-у, беж-ишь と変化し、「走る」の意。

不定動詞の лаз-и-ть は лаж-у（一人称は滅多に使われない）、лаз-ишь と変化し、定動詞の лез-ть は лез-у, -ешь と変化し、「這う」、「よじ登る」の意。

不定動詞の вод-и-ть は вож-у, вод-ишь と変化し、定動詞の вести は вед-у, -ёшь と変化し、「導く」、「指導する」の意。

不定動詞の воз-и-ть は вож-у, воз-ишь と変化し、定動詞の вез-ти は вез-у, -ёшь と変化し、「(乗り物で) 運ぶ」の意。

不定動詞の нос-и-ть は нош-у, нос-ишь と変化し、定動詞の нес-ти は нес-у, -ёшь と変化し、「持ち運ぶ」の意。その他にもいくつかある。

「馬に乗る」「馬の背に乗って行く、乗り物で行く」など、歩いて行くこと以外の意味を表す動詞においては、不定動詞と定動詞の対立は、語根の形の違いによって表される。Езд-и-ть (езж-у, езд-ишь)は不定動詞で、ех-а-ть (ед-у, ед-ешь)は定動詞である。

「歩いて行く」の意味の動詞の不定動詞と定動詞は、フランス語の *marcher* と *aller* と同様に、二つの異なる語根から形成される：不定動詞は ход-и-ть (хож-у, ход-и-шь)、定動詞は ид-ти (ид-у, ид-ёшь)（過去形は шёл, шла, шло)。

不定動詞は常に反復の接尾辞を伴っている。それゆえに、一定の目的地を持つ運動を表現する時でさえ（さらには、動詞前辞をつけることで完了体の意味が与えられる時でさえ)、動詞の行為が継続や反復の概念や、あるいは単に「行って戻ってくる」という概念を表しているときにはいつでも、不定動詞が好んで使われるのである。次の例は、英語では共に go で表されるところで、ロシア語では ходить と идти を使い分ける例で、動詞のアスペクトの働きをよく示している。

Куда Вы идёте?「(この瞬間) どちらへ行くのですか？」。Часто Вы туда ходите?「よくそこへ行くのですか？」。Вчера я ходил в церковь, в баню, в театр「昨夜、私は教会へ行って、お風呂へ行って、劇場へ行きました（そして、家に帰ってきた。つまり、行って帰ってきたという概念、すなわち行為の反復を示す)」。しかし、Вчера я шёл в театр и по дороге встретил двоюродного брата は「昨日、私は劇場に向かっていた。そして途中で従兄弟に会った」となる。一日暇をもらいたい料理人は女主人に対して次のように言う：Барыня, позвольте мне сегодня сходить со двора（сходить はこの用法では完了体)；しかし、完全に去っていく、つまり解雇された料理人について言うのであれば次のようになる：Кухарка хочет сойти со двора。また、Помню я, как к соседям нашим за сорок вёрст Пугачёв приходил...「われわれの隣人のところに 40 露里向こうからプガチョフがやってきたのを私は覚えている……」：プガチョフはたしかにやってきたのだが、単にやってきただけで行為が終わるのではない。プガチョフはやってきた後、また帰って行ったのである；さらに、不完了体が行為のイメージを伝えるものであり、本質的に継続的な運動へと変質されやすい行為を記述するのに適しているということがその基本的な特質の一つであることを忘れてはならない；その意味で приходить という不定の不完了体がここで使用されているのは、二重の意味で正しいのだ。

しかしながら、定と不定の二つのアスペクトの選択が依然としてロシア語の難しさの中で最もやっかいなものであることは認めなければならない。だから、出てきたときに注意深く用法の差に目を向けることが非常に大切である。